

校外学習 5年のあゆみ

1. 本校における校外学習

大きくわけて3つの行事で成り立っている。①1年次における宿泊研修 ②2年次における修学旅行 ③各学年における春・秋2回の遠足 である。

校外学習の目標は、①学校外での規律正しい生活を送ること ②自然とのふれあい ③体力作り などがあげられる。

2. 宿泊研修実施の概要

○目的は「高校生としての自覚を持たせ規律ある高校生活を送るためのオリエンテーション」である。

- I 期生 場所 国立淡路青年の家
期間 前団 6月3日～6月5日
後団 6月5日～6月7日
- II 期生 実施せず
- III 期生 場所 大阪府立青少年海洋センター
期間 前団 4月24日～4月26日
後団 4月26日～4月28日
- IV 期生 場所 大阪府立青少年海洋センター
期間 前団 6月11日～6月13日
後団 6月13日～6月15日
- V 期生 場所 国立淡路青年の家
期間 前団 4月17日～4月19日
後団 4月19日～4月21日

○2泊3日の研修中のプログラムは、カッター訓練、登山（オリエンテーリング）、球技大会、高校生活のオリエンテーションなどである。学校生活の中では見られない生徒諸君の活発で生き生きした姿を見ることができた。



I 期生 宿泊研修



III 期生 宿泊研修

3. 修学旅行の実施概要

I 期生 場所 信州方面
期間 7月14日～7月17日
(3泊4日)

II 期生 場所 信州方面
期間 7月14日～7月17日
(3泊4日)

III 期生 場所 白馬乗鞍国際スキー場
期間 1月31日～2月2日
(4泊5日)

○ I 期生と II 期生はベースキャンプ方式により、各クラスごとに、登山、散策などを行った。

○ III 期生については、スキー修学旅行となりスキー技術の向上を目ざした。

(なお、IV 期生・V 期生についてもスキー修学旅行の実施予定です。)



III 期生 修学旅行



III 期生 修学旅行

同和推進委員会 5年のあゆみ

- 昭和52年 5月23日
(職員研修)
「高校における同和教育」
講師 大阪教育委員会同和教育企画室
指導主事 竹中 武先生
- 昭和52年10月27日
(職員研修)
「高校における差別事象」
報告 同推委 芝口達也先生
- 昭和53年 1月27日
(職員研修)
「部落問題」— 歴史と現代の課題
講師 大阪教育大学 中野陸夫先生
- 昭和53年 5月26日
(職員研修)
「学校教育における同和教育」
— 学力保障の課題と展望 —
講師 大阪教育大学 中野陸夫先生
- 昭和53年10月20日
(職員研修)
映画「勝子ガンバレ」鑑賞
同和教育意識調査(生徒対象)の試案を
もとに討議。
- 昭和54年 5月24日
(職員研修)
「部落の歴史」
講師 大阪府立大学 森 杉夫先生
- 昭和54年 6月19日(火)
対象 第2学年、第3学年
形式 講演「人権について」を聴く
講師 大阪教育委員会 竹中 武先生
- 昭和54年10月24日
(職員研修)
- 「在日韓国人・朝鮮人の指導について」
報告 本校教諭 水野一也先生
(古代に於ける日朝関係)
本校教諭 綾仁重次先生
(近代に於ける日朝関係)
- 昭和55年 5月23日
(職員研修)
「非行化傾向にある少年の教育と実践」
講師 浪速少年院 道広明德先生
- 昭和55年10月22日
(職員研修)
「封建時代の身分制について」
講師 本校教諭 松原幸作先生
「アメリカにおける黒人差別」
講師 本校教諭 太田弘司先生
- 昭和56年 2月19日
(HR討議 第1・2学年対象)
“弱い者いじめをなくそう”
- 昭和56年 5月7日
(新入生アンケート実施)
- 昭和56年 5月12日
(HR討議 第1学年対象)
- 昭和56年 5月22日
(職員研修)
映画「おばあちゃんの遺言」鑑賞
- 昭和56年 6月2日
対象 第2学年、第3学年
形式 講演「高校生として、今、どう生
きるか」
講師 大阪府教育委員会 竹中 武先生
- 昭和56年 6月26日
対象 第3学年
映画鑑賞「おばあちゃんの遺言」
その後、教室にて感想文を書かせる。

1 期生・2 期生・3 期生 の思い出



1 期生 卒 業 記 念



2 期生 卒 業 記 念

第一期生からの便り

一期生
北 由加里

創立五周年おめでとうございます。
三分の一棟しかなかった校舎も次々に増設され、今ではどの学校にも負けません。真新しくなった校舎も、もう五年の年月が刻まれているのだと思うととても不思議な気持です。

私達一期生も、柏原東高校という親鳥から巣立って早くも一年半が過ぎました。右も左も分らなかった私ですが、今では何とか自分の仕事を処理できるようになりました。

時というのは本当に不思議です。ついこの間までは学生であった私が、社会人となり、社会人として学生を見るようになりました。そんな時、学生時代ほど自分らしく生活できる日々はないのではないかと思います。私が毎日生きている世界では自分や、自分らしいなどと言うものを求めるには程遠いところですし、それに不満を感じては生活できない、本当に矛盾の多いところです。しかし、恐ろしいもので、初めはいろいろ感じていても毎日毎日が過ぎていくにつれて、それが当たり前になっていくのです。ですから学生の諸君は少しでも自分というものを見つけてから社会へ巣立ってほしいと思います。

生活する環境や、まわりの状態は異なりますが、柏原東高校で学んだ者として、限りなく続くであろう後輩のために頑張りたいと思います。

最後になりましたが、先生方、そして学校関係の方々、これからも卒業生同様暖かい目で在校生を見守っていただきたくお願い申し上げます。(56. 7. 20)



高校時代の思い出

二期生
坂 口 太 志

僕は今、あの懐かしい、そして掛替のない三年間の高校生活を思い出しています。

入学式の後、教室でまわりを気にしながら、少し緊張気味に担任の先生の話聞いていた一年生の春。その年の秋には体育館が完成し、その完成したばかりの体育館も使い、初めて校内で行った文化祭。それから、体育大会、修学旅行と思い出は尽きません。こう書いてくると、何だか卒業式の答辞のような感じがします。

僕は今、社会に出て働いているわけですが、働いていると、どうしても高校時代と今を比較してみたり、高校時代を懐かしく思ったりすることが多くなります。あの頃の楽しかった事、うれしかった事は勿論ですが、時には、もう思い出したくないいやな事でも、今となっては、懐かしい思い出となっているものも多あります。中でも僕にとっては、クラブの思い出が最も印象強く残っています。

入学して間もない頃、僕は友達二人と先輩に誘われて、わがコーラス部に入ったのです。たとえどんないやな事があっても、クラブでみんなと歌っていると、何もかも忘れてしまうのです。クラブ活動は僕にとって最高の時でした。クラブをするためにだけ、学校に通っていたと言っても過言ではないでしょう。そのくらい、コーラス部は、いや、コーラスそのものが、僕にとって掛替のないものだったので。

高校時代に、自分自身が熱中できるものを見つけることができた僕は、本当に幸せでした。後輩諸君も、もうきっと何かを見つけておられることでしょう。

高校時代万歳。そして五周年を迎えた柏原東万歳。

私の高校三年間

二期生
中 辻 淳 子

今、こうやって文章を書き始めて、やっと、もう卒業してしまって、高校生ではないんだという実感が、つくづく湧いて来ました。三年間なんて、本当にあっという間でした。

三年間の思い出を並べるとすれば、色々な些細な事までも浮かんで来て、頭の中は一杯です。

でもやっぱり学校の事を思い浮かべると、校舎よりも、広い運動場よりも、まず、あの急なそして長い坂道の事が思い出されます。今から考えれば、「よくまあ毎日登って行ったものだなあ。」と感心するばかりです。暑い夏、途中で一休みして汗をふきながら、又、友達に手を引いてもらいながら登った坂道。

私の高校生活三年間、特に一年と二年の頃は、少し大げさですが、まさにあの坂道をいつも登り続けていた様に思われます。毎日の生活が、私なりにとっても忙しかったからです。それは、充実感に満ち溢れていたとは決して言えませんが、何だか妙に、精神的にも、身体的にも忙しかった様に思われます。

何をやるにつけても腰の重い私にとって、プラスになる面も少しはあったと思います。でも一つだけ、もう少し勉強の方も、毎日忙がしくやっていたらと思われるのですが。

今は毎日、せっせと学校へ通っているのですが、電車の窓から、広々と山の上に建った校舎とそして、あの坂を見るたびに、とても高校時代が懐しく思われ、又、あの忙しさにもう一度戻りたいと思う気持ちで一杯です。

クラブ活動

三期生
信 夫 孝 之

私の高校生活をふり返ると、まず、なんといいてもクラブ活動が大きな割り合いを占める。

毎日放課後グラウンドでの練習は、一日として楽なことではなく、こんな苦しいことが他にないと確信するほどだった。

最初グラウンドの整地、次、ウォーミングアップ、スパイクをつけて、やっと本練習に入った頃はもうTシャツが汗びっしょりになっていた。インターバル、持久走、レペテーションなどをやると、酸欠状態になり目がかすみ、頭の中はぼんやり。とにかく非常にきつかった。

初めは体力もなく家に帰ると、すぐ眠ってしまった。翌朝ねぼけまなこで学校へ行く。授業中にもいねむり。そういうことが何度もあった。しかし、日がたつにつれてだんだんハードな練習にもなれて、なんとか勉強とクラブを両立させることができるようになった。

クラブ活動を通して、思い出はたくさんあるが、その中でも特に忘れられないことは先輩、後輩のつながりだ。何も言わずにがんばっている先輩の姿を見ると、口で励まされる以上の激励を感じた。今、三年になり、指導する側の立場で思うことは、指導されるより指導する方がその何倍もの苦労があるということだ。先輩達は実によくしてくれたと思う。

今、目の前に進路決定という大きな壁が立ちふさがっている。しかし、あれだけの苦しい練習に耐えてきたことを心のささえにして、体当りでぶつかっていきたいと思っている。



クラブ活動の思い出

三期生
辻谷博己

高校生活の3年間を振り返って、一番印象深いのは、クラブ活動のことです。

私がクラブを始めたきっかけは、顧問の先生の勧めがあったからです。

入部した当初、私は陸上競技するのは初めてだったので、ウォーミングアップについていくのがやっとというところでした。そんな有様でしたから、クラブをすぐやめたくまりました。でも私が辞めなかったのは、顧問の先生の暖かい励ましがあったからだと思います。

クラブ活動をしていて、良かったと思うことは、体力に自信がついたことや、先輩ができたことによって、目上の人に対する言葉づかいや態度ができるようになったこと。また、自分では積極的になったと思うところ です。

クラブ活動の中でも思い出深いのは、今年の4月の中旬に長居競技場で行われた、大阪陸協の記録会です。この大会は、社会人、大学生、高校生、中学生など2217名が参加しました。その中で、私の出場した200m予選は、府下ほとんどの高校が参加してその技を競い合いました。私はその中の36組目の5コースでした。その組は遅い方の組だったので、1番になれました。その時の喜びと興奮は、いまでも忘れることができません。

私は卒業すると就職しますので、今年が学生生活の最後の年になります。あと残りはほんのわずかですが、今の充実感を大切に、精一杯頑張っていきたいと思っています。



高校生活を振り返って

三期生
浅野広美

学校も創立されて五周年になりました。設備も整って少しずつ変わってきているようです。

入学してからの3年間を振り返ってみて、私が一番熱中していろいろなことを得たのは、クラブ活動でした。クラブ活動で何を得心かと言いますと、テニス部に所属していましたので夏の炎天下の中での基礎トレーニング、暑さのために体がばててこれ以上は無理だと自分で決めてしまった時、「そうだ。みんなしんどいのは一緒みんながんばっているのに自分だけがまけてしまったら」と自分に言い聞かせて、がんばったこと、冬に何周も何周も校舎のまわりをランニングしてくじけそうになった時、「もう少し、もう少し走ればいいんだ。」と思いなおして、最後まで走りきったことなど厳しい練習に耐えて自分なりに精一杯努力をしてきたので、この努力によって精神力と根性を養うことができたのです。

高校生活を有意義に送ることは、値うちのある高校生活を送るということでもあると思います。値うちのある高校生活とは、いろいろな事に挑戦して自分ができる精一杯のところまで、やりとげていくことではないでしょうか。精一杯やったからと言って絶対に悔いが残らないことはないと思います。精一杯やったけれどできなかったことだってたくさんあるからです。だから、できなかったからといって自分自身が精一杯やった限り、それは、挫折したことにはならないと思います。挫折というのは、自分で自分の限界をつくってしまうことです。私自身限界という言葉はあまり好きではありません。限界という言葉に自分自身をあまやかしてしまいがちだからです。人生の土台は、10代20代でつくられるようです。私も残り少ない学生生活を有意義に過ごしていきます。

〈同窓会の足跡〉

同窓会役員一覧

	1 期 生	2 期 生
会 長	郡 山 順 夫	
副 会 長	石 田 陽 子 北 井 俊 之	塚 本 一
書 記	久保川 正 松 田 早 苗	保 崎 裕 子 渡 辺 欣 英
会 計	松 崎 晃 山 田 直 美	伊 藤 正 美
会 計 監 査	大 塩 美 由 起 田 上 周 平	塩 川 弘 美

第1回同窓会総会

日 時 昭和55年 5月25日 (日)

午前9時より

会 場 上六映画劇場

第2回同窓会総会

日 時 昭和56年 5月24日 (日)

午前11時より

会 場 母校体育館



〈PTAの足跡〉

PTA歴代役員一覧

	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度
会長	石川修一	石川修一	石川修一	岡本嘉男	岡本嘉男
副会長	小林利通	小林利通	小林利通	黒田智郷	門谷秀雄
副会長	山口やよい	山口やよい	山口やよい	伊藤静子	丸尾歌子
書記	松山国松	松山国松	松山国松	門谷秀雄	谷口静子
会計	戸田貢	戸田貢	戸田貢	伊藤一明	上田覚造
会計監査	岩佐正和	岩佐正和	山下節雄	雨迂一郎	永野善子
会計監査	麻布タエ子	谷口与志子	谷口与志子	山本和男	味岡節子
会計監査			秦修	平石清	下山平男
生徒指導委員長	佐野文作	佐野文作	佐野文作	寺井健一	山田敏雄
保健体育委員長	安田克美	安田克美	雨辻一郎	上田覚造	末吉進
広報委員長	山本和男	山本和男	北田祥子	味岡節子	入船正春
環境委員長	大村義朝	雨辻一郎	中淵憲	真鍋靖子	山岡佐代子
進路指導委員長	野々山龍清	北田祥子	北田祥子	西浦佳明	村上邦子
企画委員長		北田祥子	花形政計	砂村和典	山口昭子
文化委員長		山下節雄	矢部翠	村上邦子	西浦佳明
厚生委員長		阪本長三郎	阪本長三郎	阪本長三郎	藪田弘
食堂委員長		村井ツルエ	村井ツルエ	武中年雄	宗元佳代子
交通安全委員長		伊藤静子	丸尾恵庸	後藤毅	松谷都史子
1年学年委員長	北 劍	小沢裕子	門谷秀雄	吉川タヘ子	竹中答慧
2年学年委員長		花形政計	黒田智郷	高山靖彦	太田勇次
3年学年委員長			近藤良治	山田武彦	後藤昭二

保護者会歴代役員一覧

	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度
会長	石川修一	安田克美	安田克美	石川修一	石川修一
副会長	小林利通	北 劍	岡本嘉男	秦 修	嶽 忠臣
副会長	山口やよい	伊藤静子	伊藤静子	丸尾歌子	吉川タヘ子
書記				山下節男	紙浦宏
会計	戸田貢	山本和男	山本和男	嶽 忠臣	山本和男
会計監査	岩佐正和	北田洋一	西田知子	北田祥子	真鍋靖子
会計監査	麻布タエ子	大村義朝	郡山京子	永野善子	平石清
会計監査		山下節男	松本 等	谷口静子	谷口一義



昭和 53 年度 P T A 実 行 委 員



昭和 55. 56 年度 P T A 実 行 委 員

教職員在籍異動一覽

職名 教科	氏名	S52 年度	53	54	55	56	職名 教科	氏名	S52 年度	53	54	55	56
校長	巽 三郎						社会	太田 弘司					
教頭	細木 孝雄							松原 幸作					
教頭	末川 衛							山路 秀行					
国語	芝口 達也						数学	末川 衛					
	松村 豊							前防 道德					
	吉井真知子 (上田)							高橋 克夫					
	大西 康雄							五十嵐勝彦					
	柳瀬 安代							小沢 勝徳					
	佐藤てるよ (楠橋)							吉田 勝一					
	岡田三津子							土居 一裕					
	小林 雅美							古野 弘					
	吉田 和男							芦田 弘志					
	米田 優子							森田 二郎					
	伊藤 竜雄							三宅 正幸					
	木村 淳子							早野 正純					
	首藤 順子							矢田 勝也					
社会	米田 藤博						理科	元根 植泰					
	湯浅 勝史							田上 喬一					
	川西 哲							脇谷 寛					
	杉村 千明							重永 泰明					
	小谷 明正							滝沢 弘和					
	南木 隆治							玉城 東幸					
	綾仁 重次							小田 勝士					
	水野 一也							藤井 豊明					
	西村 信之							田村 修二					

職名 教科	氏名	S52 年度	53	54	55	56	職名 教科	氏名	S52 年度	53	54	55	56
理科	関本 正則						英語	大地 末広					
	泰 孝芳							河口 佳代					
保体	杉山 昇生						養護	水本 典子					
	山崎 忠夫							折口 裕之					
	横山 輝明						実習助手	臼井 和子					
	杉村 富雄							国重 禎子					
	堀田 良磨						事務長	守屋 泰江					
	小島 啓子					(退職)		五十嵐正恵 (井上)					
	渡辺 稔博						主査	後藤 時彦					
	上原 啓							仲野平八郎					
芸術	中村 秀子						主事	阪本 圭一					(生野高)
	保田真理子 (井畑)							西川 三郎					
	森 伸子 (谷口)					(退職)	嘱託	酒井 博重					
	曾根 唯夫							歌野 治					
家庭	西村 彰雄					(狭山高)	技師	田中 町江					
	小沢 恭子 (金子)							矢田 善宏					
英語	萩原 弘子					(門真南高)	技能員	田中 里子					(上郷小)
	鈴木 正敏							道井美紀子					
	永野 敏朗					(南郷高)	嘱託	吉藤タマノ					
	岡本 洋子 (河野)					(上神谷高)		吉成 利雄					
	辻 英子 (北川)						技能員	和田 勲夫					
	島岡 弘通							堀切緋紗子					
	平工 四郎												
	早川 栄一					(成蹊短大)							
	井上 一馬												

編集後記

ほんとうに早いもので、わが柏原東高校も、五年の歳月が過ぎようとしています。

とは言ってもまだ五歳、人間で言えば幼稚園児、これから磨きをかけていかねばならぬことばかりです。

そこで、ここに一つの節目をつけ、更に大きく飛躍するであろう願いをこめ、この小冊子を編集しました。

貴重な記録や資料の執筆寄稿に、また座談会にご協力下さいました皆様方に、厚く御礼申し上げます。なお写真では岡本スタジオに大変お世話になりました。

終わりになりましたが、今後とも柏原東高校を御支援・御指導下さいますよう、よろしくお願い致します。

五周年記念行事委員

末川 衛 高橋克夫
仲野平八郎 吉田和男
田上喬一
平工四郎 大西康雄

表紙題字 水 島 幸 子

五周年記念誌

発行日 昭和56年11月7日
編集 大阪府立柏原東高等学校
発行 五周年記念行事委員会

印刷 省 文 社
八尾市北久宝寺3丁目1-8
電話 0729-22-1292